

しまなみロード

8月19日(木) ~ 8月22日(日)

IN しまなみ海道(尾道市マリユースセンター、みやくぼ石文化交流館)

| | 午前 | 午後 | 夜 |
|-----|---------------------------|-------------------|-------------|
| 1日目 | 尾道に向けて出発 | 向島出発 ユースセンター到着 | 振り返り |
| 2日目 | サイクリング(因島、生口島、大三島、伯方島、大島) | | 振り返り |
| 3日目 | 今治市へ出発 | 今治市内散策 | フェリー乗船、振り返り |
| 4日目 | 関西に到着・解散 | | |

一日目: 開催直前まで不安定な天候でしたが、当日は見事回復傾向になり、現地も悪天候なく走れそうです。尾崎から在来線を乗り継ぎ、昼過ぎに尾道に到着しました。早く走りたいとウズウズしていました。レンタサイクルで自転車(相棒)を借用し、駅前広場にて講習を含めた練習を行いました。借りた自転車に慣れたところでついに出発です。一つ目の島“向島”へ渡船で渡り、各グループ走り始めました。グループで走る事に不馴れの方も多く、間隔が広がってしまったり、逆に狭すぎてぶつかりそうになったり、どのくらいのペースで走ればいいのか分からず遅くなってしまったりと状況が様々でした。しかし、皆無事に宿泊先の“尾道マリユースセンター”に到着しました。今晚はテント泊をしていただくので、皆で協力してテント設営をしていただきました。設営完了し、夕飯を済ませ、シャワーを済ませると、今回のキャンプで毎日していただく振り返りを行いました。振り返り方法として、今日一日の出来事の絵日記を作成し、それを基に翌日の目標や頑張る事を決め、それを絵日記にする『未来日記』を作成します。初日なので、グループによってはまだ深い話はされず、明日以降、深めていくようです。テント泊に少し興奮気味でしたが、徐々に静かになっていきました。

二日目: 夜中に少し強い雨が降ったようで、なかなか寝付けなかった方もおられたようですが、元気な声で挨拶をされていました。朝食をしっかりと食べ、テントを撤収させると、長い一日の始まりです。5つの島を渡り走ります。天候は非常に走りやすい気温で、皆快適に走っておられました。二日目からの昼食は支給されたお小遣いから自分達で購入してもらいます。それがとても楽しみなようで、お店に入られると目を輝かせながら商品を選ばれていました。各々お昼を済ませて午後からもひたすら漕ぎ続けました。途中、“サンセットビーチ”にて海遊びをするグループがありました。人気も少なく、ほぼ貸し切りで海上に浮かぶ滑り台などで存分に楽しまれていました。自転車を漕ぐ力も海遊びに使われていたようで、何名かは後半疲弊されていました。最後の島“大島”に入ると、この日の最大の難所として延々続く上り坂に挑みました。疲れたら休み、そして走りを繰り返し、二日目の宿泊地である“みやくぼ石文化交流館”に到着しました。さすがに体力も尽き、部屋に入るなり眠そうにされている方もおられました。長い一日を経た分、しっかりと振り返りも出来ており、皆で翌日の未来日記、目標を定めました。入浴、夕食を済ませ、就寝になるとあっという間に休まりました。



三日目： 朝は起床の合図があるまでこの部屋も静まりかえっていました。起床後は片付けや出発の準備を行い、朝食をしっかり食べ、昨夜出来きれていなかった振り返りを済ませました。そして今回の目的地である今治駅を目指しました。これまでに比べて距離は短いのですが、長い下り坂や4kmととても長い橋と難関が続きます。しかし、これまでに沢山走ってきた皆にとって、しっかりと意識されながら、楽しまれている姿がとても立派でした。“来島海峡大橋”を越えると今治市に到着しました。ここまで来れば、しまなみ海道も大詰めです。市内に入ると交通量が一気に増え、車や自転車、歩行者に十分気を付けながら、ついにゴールの今治駅に到着出来ました。声に出して喜ばれる方や疲れが一気に出ていく様子の方がおられました。タイミングもよく皆で揃うことが出来たので、全体写真を撮りました。その後、今治市観光をしに各グループ目的地に向かいました。今治城見学に向かったり、お土産を購入しに行ったりと、相談しながら各所を回りました。夕飯も自分達で考えていただきました。回転寿司に行ったり、レストランやフードコートで済ませたりしました。集合時間になり、駅前に戻ってくるメンバーを見ると、存分に楽しまれてきた事が表情から伺えました。駅前にてお世話になった相棒を返却し、バスに乗り東予港へ向かいました。バス車内では、やはり疲れていたのでしょうか、ほぼ全員休まれています。港に到着し、初めてフェリーを見た方は驚き、乗船して更に驚いている様子でした。一段落すると入浴、振り返りを行い、グループによっては船内探検をされていました。船内、甲板共に驚いて、楽しまれています。ただ、出港前には眠さが勝っており、布団に入り、すぐに寝入られました。



四日目： フェリーは大阪南港に六時前に到着しましたが、誰も気付かず、七時前に起床しました。起床後は眠たい体を懸命に動かされ、下船準備をされていました。船内で全体写真を撮りましたが、眠さが色濃く表れていました。下船し、朝食を済ませる頃ようやく目覚めてきました。最後の振り返りを行いました。最後の未来日記は【明日】ではなく、キャンプを通して学んだ事から『これから』の自分達を描いていただきました。これまでに何度も振り返りをしてきたので、場所問わず皆集中して振り返られていました。振り返りが終わると、後は帰るのみです。地下鉄、JRを経て、尼崎へ戻ってきました。到着するなり、緊張が解けたかのようにメンバーの表情は緩やかになっていました。全体解散後は別れを惜しみつつ、各地へ向かいました。



<キャンプ総括>

大変な時世の中、ご参加いただき、誠にありがとうございました。沢山のご参加をいただき、心から感謝致します。前回の“淡路島ぐるりんロード”も然りですが、他のキャンプと大きく異なっている事があり、【おふざけ=命に関わる】事です。リピーターの方は周知されていますが、初めての方々は少し浮わつた気持ちで始まります。その気持ちをしっかりと地に付け、緊張を持っていただく事からキャンプは始まります。なのでスタート前の講習でその辺りをしっかりと伝えました。しかし、それだけではもちろん不十分で、実際に走ってみると、普段走っている方こそ調子に乗って飛ばされたり、蛇行運転をされたりします。もちろんグループリーダーは注意喚起しますが、一緒にリピーターの方もしっかりと伝えていただけます。本当に頼りになりますし、有り難いです。リピーターの方々はキャンプの“楽しさ”はもちろんご存じですが、同時に【怖さ】も理解されているので、そうなって欲しくないために他のメンバーに伝え、守り、支えられます。身近な存在からの言葉はしっかりと伝わりますので、グループの安定感が大いに増します。こうした方々の姿を見て、憧れを持ち、次回ご参加いただいた際は、是非とも『伝える側』としてお力添えいただければ、そこに確かな成長が生まれます。それこそキャンプ冥利につきます。そうした伝え続けられていく『伝統ある素敵な場』としてキャンプをこれからも展開して参ります。

(竹中 哲郎)